

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

＜県北会場＞

科目 ⑤児童期（6歳～12歳）の生活と発達

- ◆ 今回の研修は難しい言葉ばかりで理解するのにとても時間が必要だと思いました。子どもの発達基準は均一的ではないこと、一人ひとりの子どもの発達の過程を理解する目安となることを学びました。どのように支援員と関わっていくかで、自分はやれるという気持ちが表れるのか、自分のダメなところはどんなところなのかを考える過程も必要なことだと知りました。私たちと関わり合うことで、困難なことにも向き合える成長の支援につなげたいです。
- ◆ 児童期では、思春期、青年期の発達が芽生えながら行きつ戻りつを繰り返し進行していくことを学びました。また、自分を客観視できるようになることで自分のダメなところも見え、他者と比較し劣等感をもつことも健全な成長過程だということも学びました。いろいろなことができるようになる反面、悩みや不安なこともでてくると思いました。しっかり話を聞いて気持ちを受け止められるような支援をしていきたいと思いました。
- ◆ 子どもの発達において、児童期には適応、努力、規律が求められるようになり、様々な場面で解決できない課題にも直面し、他者との比較で葛藤を経験すること、学習等の評価が劣等感のもととなることもあると学びました。ただ、劣等感も自分を評価できる健全な成長過程であることも知り、適切な支援ができるようにしたいと思いました。
- ◆ 児童期では、保育園から小学校という大きな環境の変化に伴い、適応、努力、規律が求められるようになる。子どもの発達には個人差があるので、一人ひとりの発達過程を理解し、対応しなければならない。個人に応じた言葉の掛け方で、その子の感情に影響を与えるので気を付けなければならない。「熱心な無理解者」にならないよう心掛けていきたい。
- ◆ 児童期前半と児童期後半で考え方の違い、物事のとらえ方、考え方が変わってくるということが分かりました。子どもの発達過程は一人ひとり違うので、そこを理解してあげることが大切だと思いました。また、短期記憶を実際に体験してみて、数字が大きくなるにつれて忘れていたり、逆に覚えていたりして意外と難しかったです。そしてヤングケアラーの動画を見て、周りの環境がすごく大切だと改めて学ぶことができました。